

文学大会賞

⑳ 農具小屋を開ければじい爺の気配すと言いつつ息子むすこは畑はたを耕す

檀原市 松井純代

市長賞

㉑ 千歳経し八幡宮の大銀杏おおいちよう倒木の株をひこばえ薬見守る

檀原市 杉田恭子

議長賞

㉒ 金剛の新雪まぶし雲間より天使の梯子曾我に降り立つ

檀原市 中村公夫

教育長賞

㉓ 「最初はグー」マスクにはやる園児らの声ミャンマーの子らに遥けし

檀原市 神谷和美

佳作賞

五首

②② 顔半分化粧施し髪とかし左右見比べまだ化けられる

大和郡山市 一森宏子

③② 触角を伸ばし前途を探りゆく蝸虫かぎゆうは今の我にかも似る

檀原市 高橋和代

③⑤ 如月に堅きつぼみが弾け咲く庭の白梅しらうめポップコーンのように

生駒市 加納貴子

④② 遠花火手花火美まし同じ火も今もまなうら焼夷弾あり

檀原市 的場道子

④⑤ 愉しみの悉くコロナに奪はれて歌詠むことのみわれに残る

天理市 今田亘子